

Title	研究会記事
Sub Title	Reports of the research meeting
Author	伊東, 乾(Itō, Susumu)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1952
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.25, No.6 (1952. 6) ,p.77- 78
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19520615-0077">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19520615-0077</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 研究會記事

☆

雜誌の刊行といふ言はば對外的な活動のかけに、法學研究會員は、大小幾多の研究會を通し、眞剣な切磋をつづけて、内部的にも孜々として相互の啓發に努めてゐる。

研究室在籍會員の全員をもつて構成する研究發表會が終戦直後にはやく復活せられたことは、雜誌の復刊を待つて直ちに報告した通りであり、その後、第三年目からは、折にふれてそのテーマ・内容などを本欄に記録・報道することもあつた。この種の大研究會にも況して、活潑な活動を續けてゐるものは、各専攻分野にわかれた中・小の多數の討論機構である。昨今、研究室在籍會員の漸増にもなつて、中小研究會の活動は、層一層、活潑の度を加へる傾向にある。商法研究會・裁判所法研究會・労働法研究會は、その二三の主要例であるが、商法研究會は構成員數もつとも多く、毎週定期に會合、すでに二年あまりも改正會社法と取組み、正文公布の後には嚴密な逐條的檢討を加へ來たり、現在なほ忍耐つよく同じ仕事を繼續してゐる。労働法研究會は、目まぐるしく繼起する時務に、高く深い省察を注ぎ、構成員間の整然たる分擔により、時々の課題を多角的に照射しては機敏にその成果を纏めてをり、裁判所法研究會は、國法學と訴訟法學との中間にともすれば取殘されて精密な檢討の怠られがちな裁判所法について、その逐條研究を進めてゐる。

かやうな各分野研究會の活潑化に反比例して、全員から成る研究發表會の方がやゝ硬直化の兆を呈し始めてゐるのではあるまいかとの疑念が、最近、有志會員から提示せられた。と同時に、この點の反省を契機として、活潑化しつゝある各分野研究活動の趨勢に棹さし、法學研究會全體の活動をむしろ一層潤達化へ導かうといふ、強い希望が全會員の間に醸成せられてゐる。報告中心から討論中心への方式の切換へ、開催回數の飛躍的増大、大中小各種研究會の綜合的運営、等々、われわれは目下より新形式を協議してゐる。近くその結論が出され、本誌本號刊行の頃には、倍舊の活潑さ圓滑さをもつて、本會各種の研究會は新に重厚着實な歩みを踏出してゐることであらう。既に現在、結論に達するに先立つて、時事問題研究會および民法研究會が新に發足し、新方式加味の大研究會も開催の日時を決定した。今後は、出来るならば、研究會全般の總括的記録を綴りたい。

☆

この間、大研究會としては、入試關係諸事務の終了早々、次の日程を加へてきた。

昭和二十七年四月七日(月) 午前一時於第三會議室

(一) 判例法としてのアメリカ普通法及びその變形について

平 良君

(二) 第一回參議院選舉の實態

林 烈君

(三) 行政訴訟に示される司法權の限界

田口 精一君

第一の報告は、アメリカ法のイギリス法に對する法源論的特質を  
 索め、その形成の過程と要因とを探ねようとする研究。第二は、第  
 一回參議院選舉の統計から、參議院のあり方について何がしかの教  
 訓を讀取らうとする試論であり、第三は、主題の件について特に民  
 事訴訟の請求に關する正常な利益の問題に關聯を求め、懸案に新な  
 視角を導入しようとする企圖をもつ。出席者、島田・津田・宮崎  
 (澄)・伊藤・米山・峯村・藤原・内山・伊東・田中・石川・高島・  
 須藤・石井・平・林・田口・金子・大山・人見・多田・中谷・宮崎  
 (俊)・阿久澤・利光・米津(昭)・米津(和)の二七會員(敬稱略)。  
 各報告につき座長島田法學部長はじめ數會員から質疑があり、前後  
 延々數時間に及ぶ。

(伊東記)

七八 (四一二)

昭和二十七年六月十日印刷 第二十五卷  
 昭和二十七年六月十五日發行 第六號

特價 七十圓(送料別)

東京都港區芝三田二ノ一

慶應義塾大學法學研究會

編集人 代表者 小池隆一

電話三田(45)五一八一

東京都港區芝三田豐岡町八番地

印刷者 川口芳太郎

東京都港區芝三田豐岡町八番地

印刷所 圖書印刷株式會社

半力年豫約購讀料(含送料) 三六〇圓

一力年 〃 〃 七二〇圓

購讀希望の方は左記へ購讀料を添え御  
 申込み下さい。

東京都芝局區内三田豐岡町八

發賣所 慶應通信代理部

振替口座番號東京一五五五六〇